



SSKUあまねだより

発行 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-17  
ヴェルドゥーラ・祖師谷102

編集 社会福祉法人あまね  
〒239-0805 横須賀市舟倉1-12-1  
TEL 046-833-4035 FAX 046-887-0678  
2025年7月2日 第493号(頒価20円)

## きょうされん未来カフェ ～災害への備え～

「障害のある人の日常生活と防災 ～トイレ編  ～」に参加して

6月半ばから、真夏日のような日が続いています。温暖化の影響なのか、梅雨の時期になっても関東地方においては降水量は少なく、30度以上の日が続き、西日本では過去最速の速さで梅雨明けが宣言されました。関東地方も例年より早くに梅雨明けがされるようです。流石に猛暑が続くと身体はぐったりと疲れます。皆様もどうぞお身体をご自愛くださいませ。

災害時のトイレ事情に関して現状はどのようなになっているか非常に関心があり7/1にきょうされん未来カフェに参加させていただきました。

日本トイレ協会理事の高橋未樹子さんから「能登半島地震の経験から考えるインクルーシブ防災と災害トイレ」という内容でお話をいただきました。最初に能登半島地震の概要と災害時のトイレということで、石川県内の被害状況をまず押さえました。そのなかで衝撃的なことだったのは死者605名のうち、62.3%にあたる377名が災害関連死であるという事実でした。過去の災害では東日本大震災では17%、熊本地震では死者数も少ないこともあり80%以上が災害関連死であったことも驚きでした。その内障害者手帳を持っている方は、東日本大震災では21%、熊本地震では28%、能登半島地震ではどれ位の割合であったかは不明ですが、多くの障がいをお持ちの方や高齢者が亡くなってしまったことは事実です。今後起こりうる災害の際には、最小限にする努力をしていくことが必要であると思います。

排泄に関しては、どのような状況になっても我慢することはできません。能登半島地震に際しては断水が長期間続いたこともあり、トイレの利用に大きな制限がかかりました。街中のトイレに関して津波や液状化現象で浄化槽が利用できず、避難所のトイレは水が使えず、トイレに大便が溢れた状況がパワーポイントの画面から映し出される様子を確認すると、他人事ではないと感じました。

災害用トイレは発災するとすぐに国からの支援物資の一環（プッシュ型支援=被災自治体からの要請を待たず、国や都道府県が必要と見込まれる物資を被災地に緊急輸送する支援）として被災地に届けられますが、発災から仮設トイレが届くまでに最低3日間必要とのことです。その間のことを考えれば、携帯トイレや簡易トイレの備蓄が必要で、最低でも7日分の備蓄が必要とのことです。あまねでも備蓄はしているものの、実際に使用したことがないので、盛んに実際に使用してみる必要性を話されていたので、一回は実際に使用してみたいと思います。

横須賀市でも災害時にマンホールトイレを設置する旨の話を聞いた記憶があります。今回の話を伺うまで、マンホールトイレの構造や、これが大都市にしか整備されていないことなど知らないことが沢山ありました。

発災後1週間の輪島中学校の様子が映し出されましたが、狭い体育館の中で、パーテーションもなく、床に直接雑魚寝状態。食事1000人に対しておにぎり150個。食が安定していない状態の中、食べることで精一杯。1/5に仮設トイレが設置されましたが、和式トイレなので障害者や高齢者が使いにくく、我慢をして失敗してしまう方が多くいたということです。1/7に宇和島市から昇降機付きのバリアフリー型のトイレカーができたことによって、高齢者や障害者の方にとってやっと利用できるトイレが整いました。

このような状況を考えると、日頃からの備えと、訓練が本当に必要であるとの想いに改めて至りました。排泄は生きていく以上絶対に我慢し続けることは出来ません。最後に高橋さんが話された 自分で備える自助 7: 地域で助け合う共助2: 行政が行う公助1 (7: 2: 1) を改めて胸に刻みつける必要があると感じました。

備蓄している簡易トイレを何かの機会をとらえて実際に使用してみよう…と思います。それは自宅で備蓄しているものも含めて考え実行したいと思います。

【記・海原】



## ・7月 予定

7月11日(金)	資源回収	(池田・岩戸)
7月12日(土)	資源回収	(舟倉・久比里・若宮台)

資源回収ご協力  
ありがとうございます

5月実施分は11,965kg

奨励金は47,800円でした



## 「福祉とアートが出あって」オリジナルグッズが出来ました



あまね 共同作業所 × YARUCA creators  
× 横須賀美術館

2019年より横須賀美術館で開催されている「福祉とアートが出会うとき」(協力:横須賀市障害福祉課)と題したワークショップに、あまねの仲間たちと職員で度々参加させて頂いております。その出会いをきっかけに、講師のYARUCA Creatorsとあまねで、仲間たちのアート作品を活かしたオリジナルグッズを作ることとなりました。

あまね美術クラブで貯蔵してきた沢山の作品一枚一枚に目を通していただき、グッズの提案からデザイン、製品化まで、YARUCA Creatorsに導かれ、この度とうとう形になりました。また、そのグッズを横須賀美術館ミュージアムショップで販売していただける運びとなり、嬉しい限りです。

ミュージアムショップの窓に面した入口に、仲間たちのオリジナルグッズは展示販売されております。観音崎の海と緑を背景にやさしく佇んでいます。一人でも多くの方に足を運んでいただき、是非手に取りご覧になっていたきたいと思います。



谷川 弥さん  
LOGO



阿部 千春さん  
「だいこん」「ホビーの花」



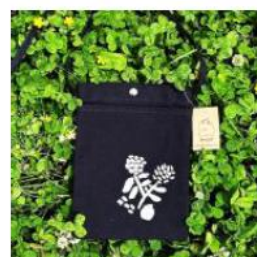
A4トートバック  
黒・白 各2,200円



根本 章芳さん  
「むらさき菜の花」

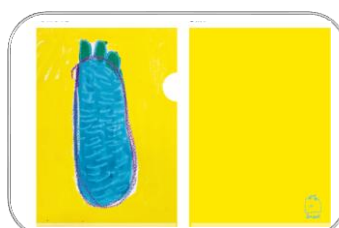
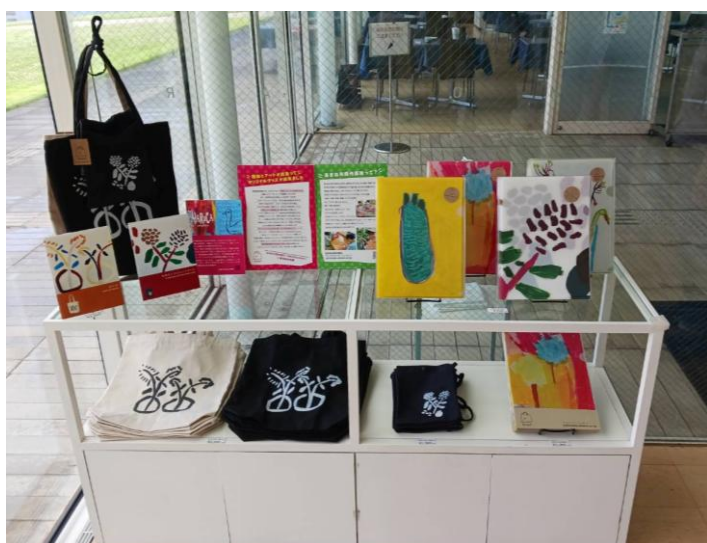


原 詩朗さん  
「あじさいとチョコレートケーキ」「菜の花」



サコシュ  
ネイビー 1,500円(税込)

横須賀美術館 YOKOSUKA MUSEUM OF ART



A4クリアファイル 4種、各350円

全種セット1,200円 (税込)

販売場所:横須賀美術館ミュージアムショップ・ともしびショップマリン(横須賀市役所内)・ワークハウスあまね  
問い合わせ先  
ワークハウスあまね 〒239-0805 横須賀市舟倉1-13-9 TEL:046-835-0723 (担当:市川)  
メール:wakuwaku@yokosuka-amane.or.jp